



笑顔につながる食事を

～ひとりひとりの思いに添った食へのアプローチ～

社会福祉法人千歳福祉会

特別養護老人ホーム 暢寿園

○安田果菜子 ○安田光孝

阿部麻衣子 福土一恵

昭和古情館



はじめに

当施設では、ご利用者が生活の中に楽しみを見出し、生きがいを持って生活して頂けるよう、できる限りの個別ケアを行っている。

その中でも、多くのご利用者が、楽しみのひとつとしている食事をさらに楽しんで頂くために、個々人の状態や思い、嗜好等に添った楽しい食事会（食事を通じたレクリエーション）を行っている。

また、食事摂取量が減少し、栄養状態が維持、改善できないご利用者に対して、介護職員、管理栄養士、調理委託職員が連携し、最後まで口から食べていただける工夫を行っている。

目的

栄養状態を維持し、最期まで口から食事を
するためには、ただ栄養量を確保するだけで
はなく、「食べたい」という思いや意欲を
持って生活をすることが重要であると考え
る。

そこで、食事が笑顔につながることを目的
として行った取り組みを報告する。

方法

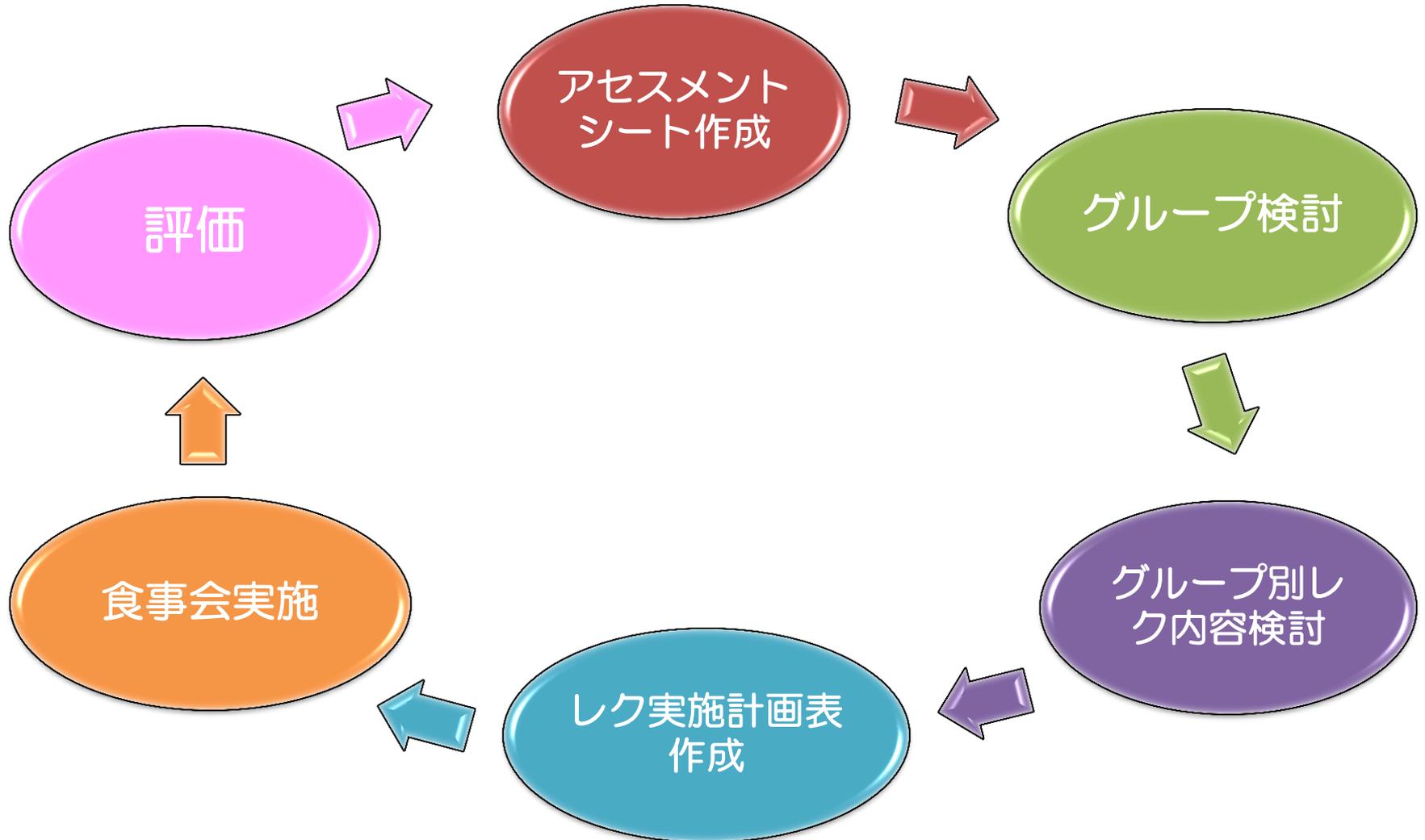
研究1

ご利用者の嗜好や状態等についてアセスメントを行い、いくつかのグループに分け、楽しい食事会（食事を通したレクリエーション）を実施した。実施後、ご利用者の言葉や様子を画像と共に記録し、ご利用者の笑顔（満足感）を評価した。

楽しい食事会アセスメントシート

氏名	歩行状態	摂取動作	食形態	排泄	嚥下	ご本人の希望	食事会
●●様	歩行器	自立	常食	自立	ムセ無	寿司が食べたい。	回転寿司
○●様	車椅子	介助	全粥,軟菜	全介助	ムセ有	天ぷらと寿司が食べたい。	出前
△△様	車椅子	介助	ゼリー食	全介助	ムセ有	(甘いものが好きな様子有)	アイスクリーム購入し昭和古情館で食べる。
●△様	歩行器	介助	全粥,軟菜刻	自立	ムセ無	寿司が食べたい。	回転寿司
▲△様	車椅子	自立	全粥,常食	見守り	ムセ無	ピザが好き。	出前
○▲様	独歩	自立	常食	自立	ムセ無	お花見がしたい。	コンビニでおやつを購入し、公園でおやつを食べながらお花見する。
△▲様	車椅子	介助	全粥,軟菜刻	全介助	ムセ有	(動物が好きな様子有)	動物を見ながらおやつを食べる。

楽しい食事会PDCAサイクル



結果 (研究1)

実施報告書より

○▲様(お花見)

プリンケーキを購入し公園で「美味しいね。」と召し上がっておいりました。写真を撮る際ピースされており「桜の下で食べるのは気持ちがいいね。来年もお願いします。」とお話されておりました。

●●様(回転寿司)

お出かけの声かけをすると楽しみな様子が見られ、回転寿司では上手に指先でつまんで召し上がっておられました。帰りの車の中でもご機嫌な様子で、「また行きたいね。」とお話されておりました。

実施計画書 実施後の評価

【お花見】

少し風があったものの暖かい天気恵まれ、利用者もお花見、お散歩を楽しまれておりました。利用者の笑顔が多く見られる機会が出来て有意義であったと思う。

【回転寿司&お買い物】

ご利用者の笑顔が多く見られていたので良いレクリエーションであったと思う。今後も、ご利用者の意向に沿ったレクリエーションを企画して行きたいと思う。

外食



お花見/昭和古情館/焼きそば



出前



セレクト食

A さんまの塩焼き



B 冷やし中華



A さんまの塩焼きの展開食





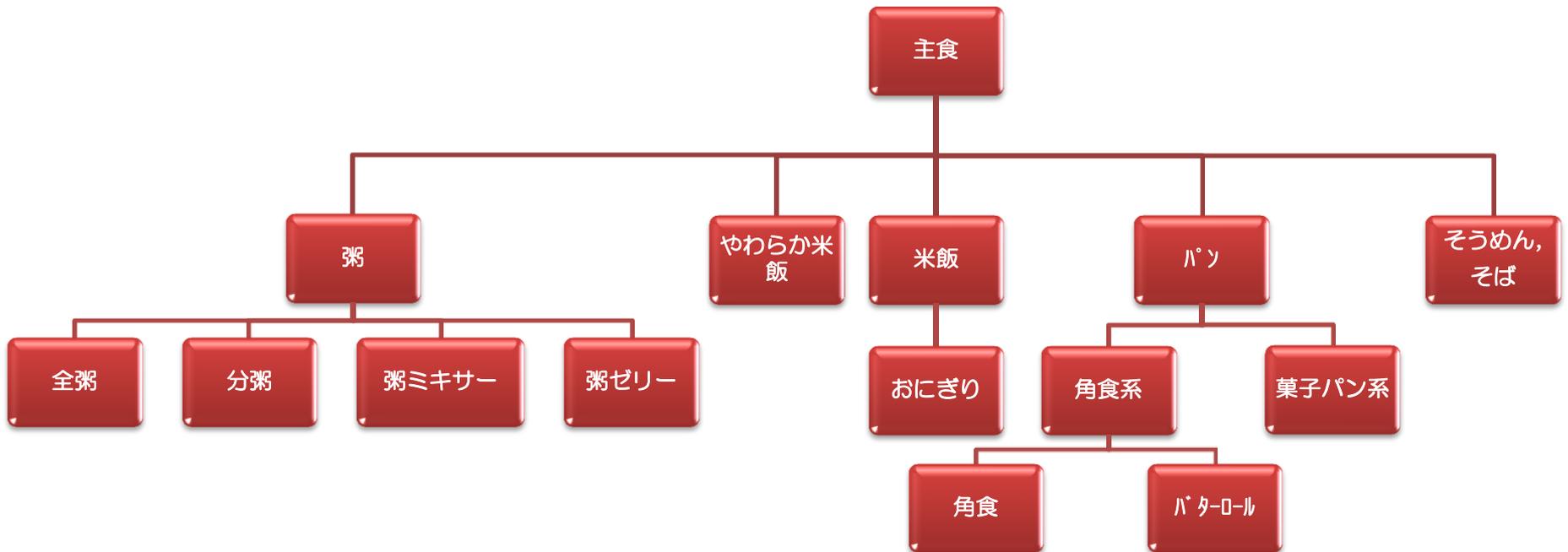
B 冷やし中華の展開食



夕食



個別対応の種類（主食）



※その他

- 朝夕食 おにぎり、昼食やわらかいなり寿司・やわらかおはぎ・のりまきのローテーション
- 朝食 食パン、昼食ふりかけおにぎり、夕食全粥
- 朝食のみそうめん、昼食のみそうめん、毎週水曜日昼食のみそうめん等

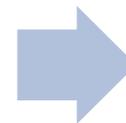
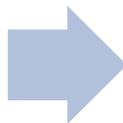
主食おにぎりの種類



例 朝食

昼食

夕食



研究2

方法

食事摂取量低下したご利用者に対し、介護職員、管理栄養士、調理委託職員が連携し、食事形態や量及びご本人の嗜好など、ご利用者に添ったアプローチを行い、体重と摂取エネルギー及び摂取時の表情を評価し、自ら「食べる」という思いを検討した。

M様プロフィール

年齢 83歳 女性 介護度 4

障害高齢者の日常生活自立度 B2

認知症高齢者の日常生活自立度 II b

食事動作～自立 移動～車椅子

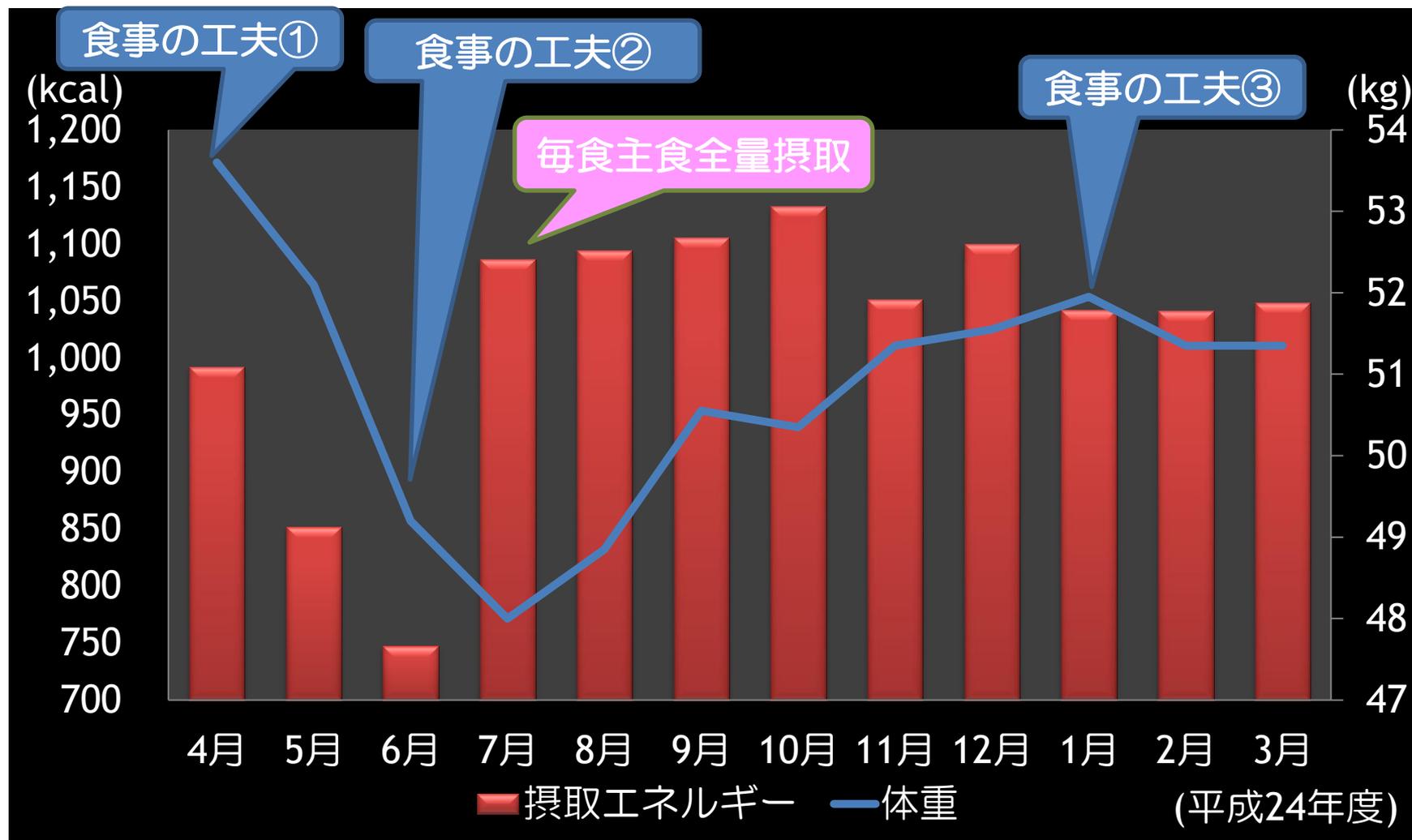
既往歴～平成17年頃 腹部大動脈瘤

平成20年5月 脳出血(左視床出血)

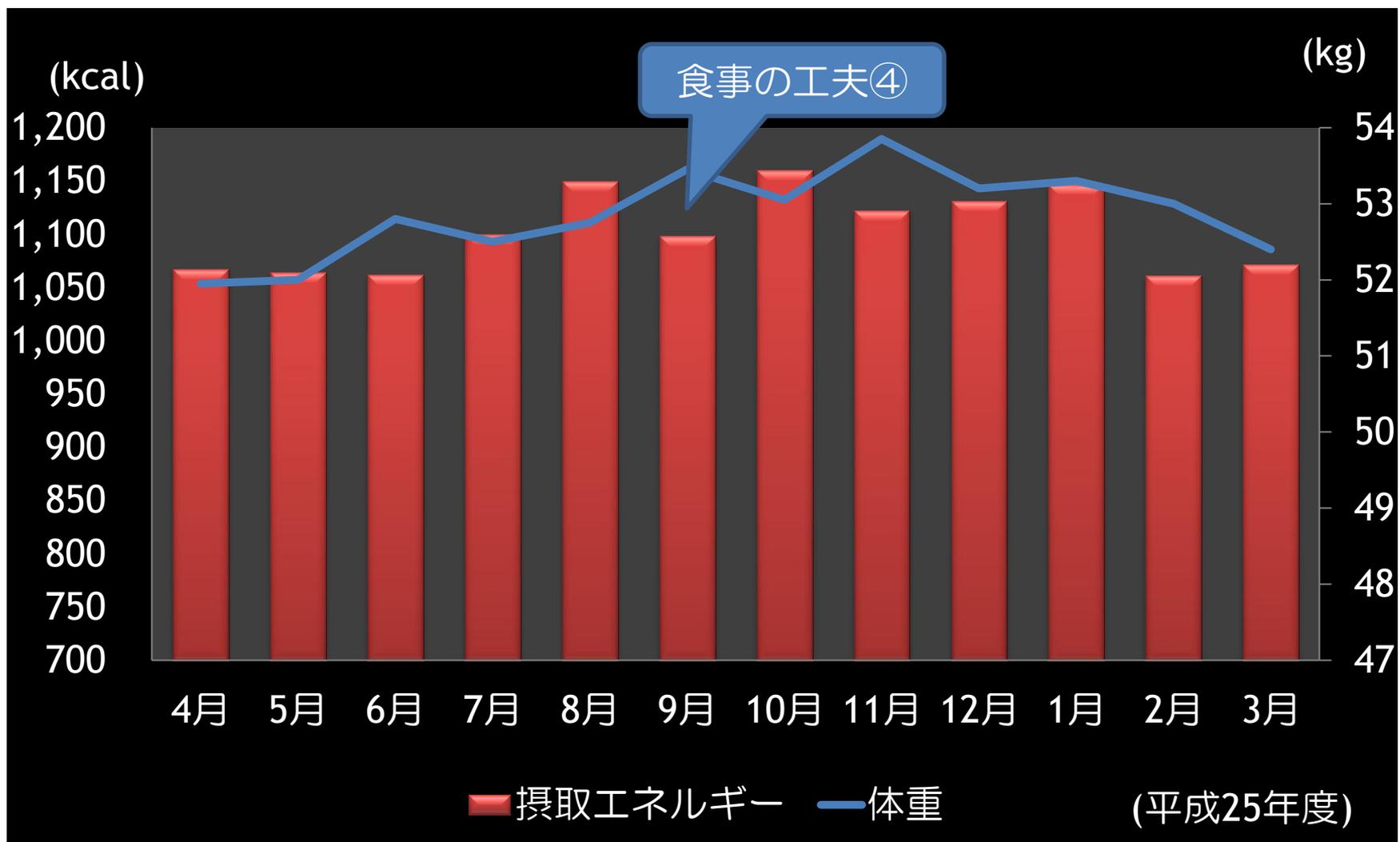
現病歴～脳血管性認知症, 高血圧症

脳出血後遺症(右片麻痺, 失語症)

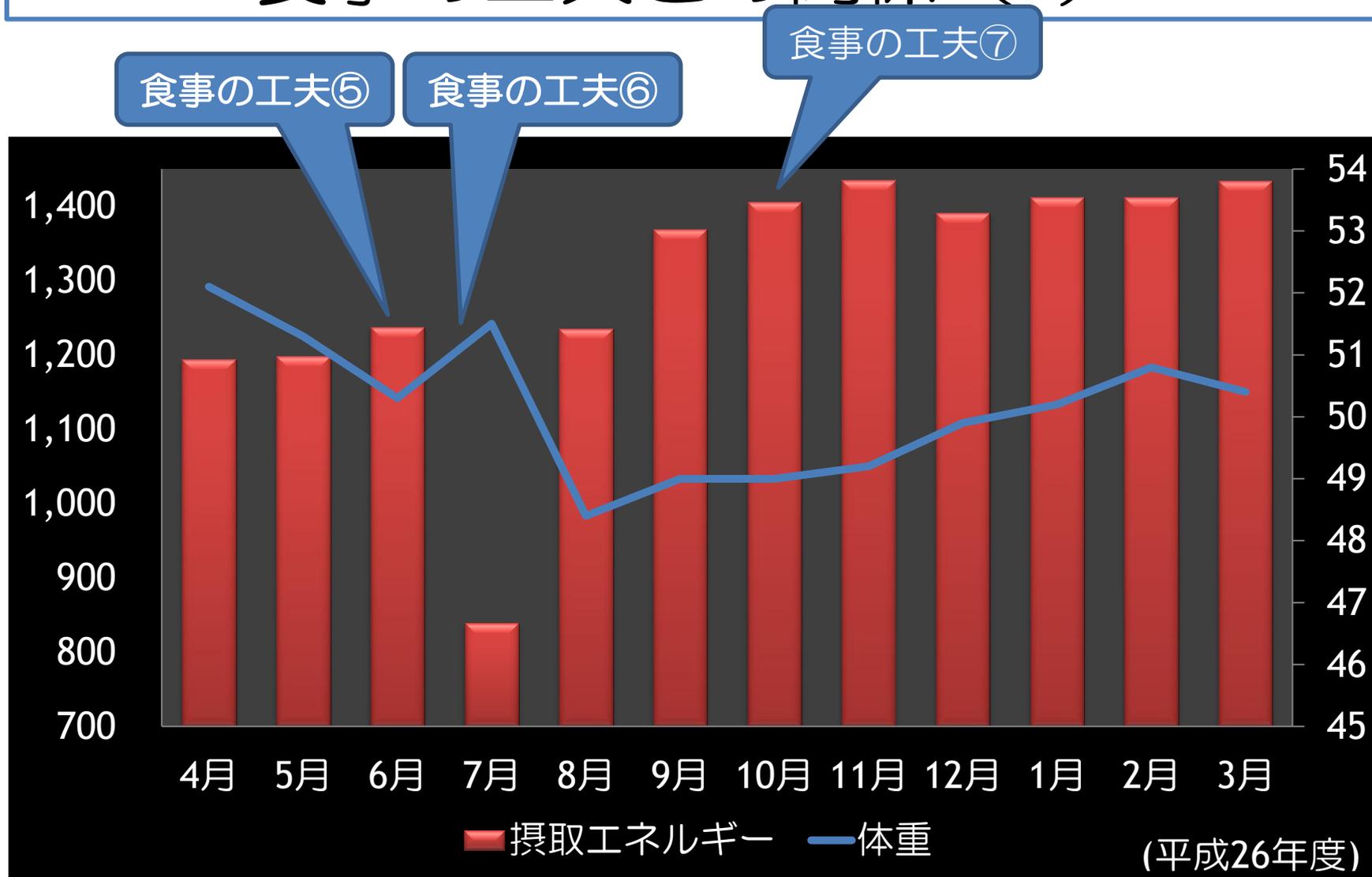
摂取エネルギー及び体重と 食事の工夫との関係 (1)



摂取エネルギー及び体重と 食事の工夫との関係 (2)



摂取エネルギー及び体重と 食事の工夫との関係 (3)



食事の工夫④

朝食と夕食 昼食 月・木



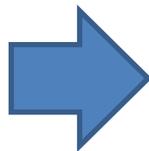
火・金



水・土



食事摂取量低下時の表情



食事摂取量確保時の表情



考察

外食,出前,屋外食等をご本人の状態,嗜好,思いに合わせて実施した事により,ご利用者にとって満足感が得られ,笑顔が多く見られたことが考えられる。楽しかった,また行きたいという思いから,「食べたい」という,食事に対する意欲がわくことが考えられた。

考察

Mさんの食事内容を定期的に見直すことにより、自ら「食べる」という思いから摂取量の確保が実現されていることが考えられ、他ご利用者が食事量低下した際にも生かされている。

これらのことから、ただ栄養量を確保するだけではなく、「食べる」という思いから摂取栄養量が確保された場合には、最期まで口から食事を摂ることが出来、笑顔につながることが示唆された。

今後について

楽しい食事会を細分化し、参加回数を多くすることや、食事内容の個別化をさらに増加することにより、今以上に「笑顔につながる食事」となることが考えられる。しかし、介護職員や調理職員だけではマンパワーに限界があるため、施設職員が連携して行うことや施設設備や備品の充実を図る等さらに工夫が必要である。



ご清聴ありがとうございました

